

弥生路を疾走!

1月29日、第18回吉野ヶ里ロードレース in 神崎市(神崎市体育協会・佐賀新聞社主催)を吉野ヶ里歴史公園で開催しました。

当日は、10 kmコース、4 kmコース、2 kmジョギングコースの3種目を行い、市内外から約1500人が参加しました。暖かい日差しに包まれた弥生の風景を眺めながら走る選手の皆さんに、コースのまわりからは、多くの声援が飛び交っていました。



▲ピストルの合図で一斉にスタート



▲平塚潤さんのランニング指導



▲市河麻由美さんもジョギングに参加

今回は、特別ゲストに平塚潤さん(城西大学准教授)、市河麻由美さん(日本陸上連盟公認コーチ)を迎えて陸上教室を開催し、約300人の参加者が足上げ方や腕振りの仕方などランニングの基礎について指導を受けました。

教室後に行った2 kmジョギングコースでは、平塚さんと市河さんも参加され、平塚さんはトップの選手と並んでゴールし、会場を沸かせていました。各種目の結果、特別賞を受賞された方は次のとおりです。

部門	1位	2位	3位
4 km男子	四辻 剛 鳥栖工業高校	坂本 佳太 鳥栖工業高校	鳥崎 公秀 鳥栖工業高校
4 km女子	一 紋野女 鹿南中学校	福田 結女 佐賀清和高校	大島 由佳 西九州大学
10 km男子	鬼塚 智徳 九電工	久米 幸輝 医療法人 ひらまつ病院	溝田 楨悟 戸上電機製作所
10 km女子	植木 千与枝 まどかRC	土橋 りか 多久市	山野 久美子 神崎市役所
遠来賞	大坪 一之		埼玉県
最高齢者賞	福本 美暲		87歳



伝統の七福神行事

千代田町姉地区に伝わる伝統行事「姉の七福神」が2月5日に行われました。

家内安全や豊作を願って約3



50年前から続いていると言われる、保存会のメンバーが福の神に扮し、2班に分かれて約80軒の家庭を回りました。

先導役を務める幸領人を先頭に8人が「七福神の入り」「福は内、鬼は外」「五色の竿に金の糸、大きな鯛を釣り上げた」などと口上を述べながら家に入り、お話を披露。各家庭では、縁起のいい福の神を酒などでもてなし、華やいだ雰囲気になりました。

地域の人に感謝の言葉

2月2日、千代田東部小学校で日ごろお世話になっている地



域の人に感謝を表す「ありがとう集会」が行われました。

ありがとう集会は、してもらったことに素直に感謝を伝える子どもにもなってほしいと、昨年から行っています。

見守り隊や読書ボランティアなど、約40人の地域ボランティアを招き、日ごろの感謝を伝えるため、次郎かるたやレクリエーションを一緒に楽しみました。

最後に、児童たちが「いつもありがとうございます」とお礼の言葉を伝え、給食を一緒に食べました。

「優秀経営者顕彰」を受賞

1月26日、「第29回優秀経営者顕彰」(日刊工業新聞社主催)で日刊工業新聞社賞を受賞された株式会社八雲製作所(神埼町)の久保勉会長が受賞報告のため来庁されました。



この顕彰制度は、優れた経営

「いい音の演奏会」 「音楽の夕べ」

12月23日、神崎市中央公民館で、神崎市と神崎音楽愛好会の主催による第28回「音楽の夕べ」が開催されました。混声合唱の素晴らしい歌声と、トーンチャイムやピアノ、マリンバ、バンブー(竹楽器)などの多彩な音色に、訪れた観客もうっとりとした聞き入っていました。

また、今年度は東日本大震災

手腕により企業を成長させ、日本経済の発展と地域社会に大きく貢献したモノづくり関連の中心・中小企業の経営者を顕彰することを目的とし、今回は全国から26人が受賞されています。

受賞報告を受け、松本市長は「昨今の景況の折、若手人材の積極的な登用を進められ、ベテラン技術者からの技術継承と不況に強い体制作りを通して、地元企業が元気に操業していることは非常に心強い」と挨拶しました。久保会長は「表彰を受けたことは通過点、これからも頑張っていけという激励を受けたと思っている。今後も歩みを止めることなく、社員や顧客はもとより地域のためにも力になっていきたい」と応じられました。

チャリティコンサートとして開催され、収益金の一部300,518円を義援金として寄附されました。義援金は神崎市共同募金会から中央募金会を通じて被災地へ送られます。



無病息災願い水かけ

千代田町の大島地区に約250年前から伝わる水かけ祭が2月12日に行われました。

水かけ祭は、五穀豊穡や無病息災を願い、地域の若者たちがお互いに水を掛け合い身を清める伝統行事です。この祭の1ヶ月後に、福岡県の英彦山まで参拝するのがしきたりとなっています。地区内の3班から集まった縮



め込み姿の若者が寒さに負けず水を掛け合う姿に、見物人からは拍手が送られていました。

子どもたちの生け花展

伝統文化池坊いけばな脊振子ども教室花展が、2月12日から14日の3日間、脊振総合支所ロビーで展示されました。

この花展は、伝統文化池坊いけばな脊振子ども教室が開いたもので、現在教室には、脊振



小学校児童27人が在籍しています。今回は今年度最後の展示で18人が出品。自由なテーマで生けた作品とマグカップに熊を表現した作品の2点を出品し、訪れた人々の目を惹きつけていました。

出品した子どもたちは「自分が好きなように生けて、花をきれいにまとめられるのが面白い。これからも続けたい」「最初は生け花が全然分からなかったけど、分かるようになってきた」などと話していました。

指導している廣瀧千鶴子さんは「植物にも命があり、生け花をすることで自然を愛する心を育てたい。大人になった時に教室のことを思い出して、できれば、伝統文化である生け花を続けてほしい」と話しました。

一年占う百手祭

1月22日に神崎町横武地区に伝わる百手祭が行われました。



この祭りは、地区の乙龍神社で行われる新春の祭りです。1年間の五穀豊穡や家内安全、無病息災を祈願し行われる行事で、神事後、地区の人たちにより大的・紙的・菱的をめぐり矢が放たれました。大的に当たると「良いことがある」、紙的に当たると「家族の運が良い」、菱的に当たると「豊作になる」と伝えられています。

当日は、多くの矢が的に当たり、大的の裏につけられた「鬼」と書かれた紙にも早々に当たりました。参加した皆さんは「今年は良い年になる」と喜ばれていました。この「横武の百手祭」は、昭和48年に市の重要無形民俗文化財に指定されています。

「おねんワン」一緒に交通安全

幼児交通安全フェスティバルが2月20日、神崎市中央公民館で行われました。

次年度入学の幼児を対象に、交通安全協会・交通指導員などの協力で毎年行われているもので、今回は市内の幼稚園・保育園から園児約300人が参加しました。

園児らは、警察音楽隊の演奏を楽しんだ後、映像で「道路では遊ばない」「横断歩道を見て渡る」「道路に飛び出さない」の3つのお約束を学びました。



その後、昨年に続き、神崎市のゆるキャラ「くねんワン・くねんニヤン」と一緒に、信号機の確認や横断歩道の渡り方を実

際に体験しました。

また、会場の外ではパトカーや白バイの試乗が行われ、園児たちを楽しませていました。



ICT授業の実践報告

仁比山小学校で1月26日、神埼地区ICT活用実践交流会が開かれました。



立志の誓う高らかに

武家社会の元服にちなみ、14歳になった中学2年生を祝う立志式が2月2日に神崎中学校と千代田中学校で、2月9日に脊振中学校で行われました。

脊振中学校では、全校生徒58人が出席する中、2年生17人が「責任ある行動ができるようにする」「最後まで責任持つてやり

ICT(情報通信技術)を生かして、児童生徒の情報活用能力の育成やわかりやすい授業の実現などを目指す取り組みで、神埼地区小中学校の情報教育担当者や仁比山小の教師など約40人が参加しました。

まず算数部会と理科部会に分かれ、実践報告が行われた後、白石町立白石小学校の白濱正博教諭が「ICTを活用して工夫！」わかる授業の基礎・基本」というテーマで講義をしました。白濱教諭はICT活用のキーワードとして「日常的に」「だれもが」「拡大する」などを挙げ、子どもたちに情報や課題を提示し、見通しや解決方法を考えさせ、まとめさせるという授業モデルを紹介。参加者は熱心に耳を傾けていました。

「遂げる」など一人一人が今後の目標を高らかに宣言しました。

式の後、脊振中学校出身で脊振町倉合在住の幸所博文さんが「出会い〜人と人とのつながり」と題した講演を行い、「出会いを大事にして大人になってほしい。脊振を捨てず、ふるさとを大事にしてほしい」と生徒達を激励しました。



脊振中学校では、立志式後に餅をつく伝統があり、誓いを終えた2年生が雪に負けず、餅をついていました。



高志神社で文化財防火訓練

1月22日に千代田町の高志神社とその周辺で「文化財防火デー」に伴い、地元住民、消防署、市消防団南部隊が参加し、文化財火災防ぎ訓練が行われました。



訓練は、高志神社の能舞台から出火し本殿に延焼する可能性があると想定で行われました。発炎筒の煙が立ち込める中、区長から消防署への通報、地元住民による消火栓からの初期消火、その後消防署と消防団による消火活動が行われました。寒い早朝に行われた訓練でしたが、地区住民にも多数参加いただきました。

「文化財防火デー」は、昭和24年1月26日に法隆寺金堂壁画が火災により焼損したことを契機に、文化財の愛護と防災意識の高揚を図るために制定されています。

菜の花を見に出かけませんか？

厳しかった今年の冬、いつにも増して春の訪れがうれしく感じられます。「春は黄色から」という言葉があるそうです。「黄色は幸福の色」とも聞きます。黄色い花の象徴ともいえるのが菜の花。この花を地域おこしに生かそうという取り組みが八子地区で行われています。市内の菜の花の見どころと併せて紹介します。



神埼の新名所を目指して

神埼市神埼町八子地区では、約1万坪の敷地に菜の花を植える「菜の花プロジェクト」が進行中です。

このプロジェクトは、神埼町在住の馬渡征則さんが「お世話になった八子の地で恩返しをしたい」と昨年4月から、自身の所有する1000坪の土地と5000坪の土地を購入。隣接する耕作放棄地を借り上げ、数人の賛同者



菜の花畑予定地を説明する馬渡さん

とともに、荒れた土地を元に戻す作業を進めてきました。秋には第一段階として、1300坪にソバを栽培しました。

菜の花プロジェクトは、その第2弾。植える範囲も広げました。馬渡さんは「土地が荒れているので、すべては花をつけたいと思う。これを1年でできるとは思っていない。自分のできる範囲でやるだけです」と話す。

菜の花は12月初旬に種まきをしたので、見頃は3月末から4月上旬になるだろうとのこと。

馬渡さんに将来の夢を聞くと、「ここが神埼の新名所となり、花を楽しみながら、散策してほしいですね。あとは、多くの人が訪れ、地域活性化の起爆剤になると良いですね」と話していました。

場所は、県道31号線を真正寺方面へ曲がり、道なりに南へ下ると案内板があります。県道269号線からは、神埼市巡回バス二子バス停から北に入り、八子公民館を目指すのがわかりやすいと思います。

神埼市の菜の花名所



・JR神埼駅北口前

約1・7ヘクタールの休耕田に約100万本の菜の花が咲く人気スポット。一面に咲いた菜の花は黄色い絨毯のようです。

○見頃・・・4月上旬



・城原川堤防
近年は、河川工事等で減少していますが、城原川の広い範囲で見ることが出来ます。
○見頃：3月中旬から下旬

◎問い合わせ先

神埼市役所 市長公室
☎3710088